

(記載例)

ばい煙に関する説明書

事業者名 近畿経産株式会社

事業場名 近畿経産株式会社 大阪営業所

設備名 第1号ディーゼル機関

(非常用予備発電装置)

年 月

ばい煙に関する説明書

一 設置しようとする発電設備等の概要

事業者名	近畿経産株式会社	
代表者氏名	取締役社長 田中 一雄	
代理人の職・氏名	—————	
住 所	大阪府大阪府中央区大手前1丁目5番44号	
事業場の名称	近畿経産株式会社 大阪営業所	
事業場の所在地	大阪府大阪市北区中之島1丁目3番5号	
ばい煙発生施設の概要	ばい煙発生施設番号及び名称	第30号 ディーゼル機関（非常用予備発電装置）
	ばい煙発生施設の型式	〇〇鉄工 6L18CX シリンダー径140mm 6気筒 エンジン出力294kW
	蒸発量又は焼却能力	———— t/h
	加熱面積又は火格子面積	———— m ²
	燃料の燃焼能力（重油換算）	67 l/h
	発電設備等の番号 発電設備等の出力	第1号機 248kW
	設置年月	年 月
	着工・使用開始予定年月	年 月 ～ 年 月

- (注) 1 ばい煙発生施設番号及び名称の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる号番号及び名称を記載すること。
- 2 ばい煙発生施設がボイラーの場合は、蒸発量を記入すること。
- 3 ばい煙発生施設が発電設備又は動力設備の場合は、設備の番号及び出力を記入すること。

二 ばい煙発生施設使用の方法（最大連続時）

工場又は事業場における 施設の名称・番号		第1号 ディーゼル機関（非常用予備発電装置）	
排出基準	硫黄酸化物	m^3N/h	} 当分の間 } 適用猶予
	（規制K値）	（K= ）	
	窒素酸化物	ppm（容量比）	
	ばいじん	mg/m^3N	
使用燃料	種類	A重油	
	発熱量	42,697kJ/kg(低位)	
	比重	0.855	
	硫黄分	0.5%（重量比）	
	窒素分	0.02%（重量比）	
	灰分	0.01%（重量比）	
	使用量	57kg/h(67l/h)	
排煙条件	排出ガス量（湿り）	2,000 m^3N/h	
	排出ガス量（乾き）	1,900 m^3N/h	
	排出ガス温度	400℃	
	排出ガス速度	19.4m/s	
	煙突の実高さ	8.0m	
	煙突の有効高さ	10.9m	
	排出ガス中の酸素濃度	14.0%（容量比）	
排出ばい煙	硫黄酸化物の量	0.120 m^3N/h	
	硫黄酸化物の濃度	105ppm（容量比）	
	硫黄酸化物の最大 着地濃度	---ppm（容量比）	
	（相当K値）	（K=---相当）	
	窒素酸化物の量	1.6 m^3N/h	
	窒素酸化物の濃度	950ppm（容量比）（O ₂ =13%）	
	ばいじんの量	0.08kg/h	
	ばいじんの濃度	50mg/ m^3N （O ₂ =13%）	
参考事項	この欄には、以下の事項等について記載すること。		
	（1）ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設について、一工程中の排出量の変動の状況・・・特に変動なし		
	（2）窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法・・・該当なし		
	（3）1日の標準稼働時間が24時間に満たない場合の稼働時間・・・非常用につき年間約20時間		
	（4）ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常用において用いられるものをいう。）の別・・・非常用		

三 ばい煙の処理方法

該当なし

四 添付図面

- (1) 発電所の所在地を示す5万分の1の地形図（設置場所を明示すること。）
- (2) 発電所構内配置図（ばい煙発生施設、ばい煙処理設備、煙突の設置場所を明示すること。）
- (3) ばい煙発生施設構造概要図（主要寸法及びバーナーの位置又は、シリンダ径及び気筒数等を明示すること。）
- (4) ばい煙処理設備構造概要図（主要寸法、各部名称等を明示すること。）

- 備考
- 1 本説明書のうち一～四について、写しを一部提出すること。
 - 2 本説明書の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
 - 3 非常用の設備にあっては、以下五～九について添付することを要しない。